

くま。女性が輝いていると、その周りの人も自然と笑顔になるよう

大切なのは自分らしく輝ける場所

市長 一生懸命な人を見ると、誰もが応援したくなるものです。皆さんの「思い」に、多くの人が「共感」し、そのエネルギーが「行動」に結び付いていったんですね。

皆さんは、女性リーダーとして活躍されていますが、女性が地域や社会で活躍するために取り組まなければならない課題や、市として応援できることはありますか。
大野 「しゅっぱぽっぽ」に参加するお母さん達から「子育てに追われ、自分だけ社会から取り残されてい



な気がするのは、私だけじゃないと思うんですね。

と感じている」という相談を受けることがあります。そうした悩みを抱えたお母さん達に、私たちがスタッフはいつも「母親の存在自体が、子どもや家庭にとって大切で、大事なお仕事なのよ」と伝えていきます。さまざま悩み相談を受けますが、スタッフよりも、仲間同士の「大丈夫」の一言が心の支えになることがいかに多いか。年齢が近く、似た環境にいる仲間の言葉は安心できるんですね。私たちもアドバイスすることはあっても、余計なことはいけません。母親同士のつながりを大事にしています。

後藤 女性には「結婚」「出産」「子育て」など、女性ならではの、人生の大きな分岐点があります。私もそのたびに交友関係や地域とのつながりが切れてしまい、一からつくり直さなければなりませんでした。

「女性は集まって情報共有するのが得意」と言われることもあるようですが、それは、つながることにメリットを感じられるからです。でも、中には一人で悩みを抱え込んでしまい、SNSなどではつながっているように見えても、実は

孤独で寂しい思いをしている人もいるんじゃないでしょうか。

そうした女性が気軽に集まることができ、活躍できる場が少ないように感じます。働く場も必要ですが、子育てや介護など、地域の中に相談できる場所も必要です。

そのために、市には女性が何を求めているか、常にアンテナを張ってほしいと思います。

市長 おっしゃるとおり、常にアンテナを高くしておくことは重要ですね。私も、市議時代に働くお母さん達から現状を伺い、「学童保育の時間延長」に取り組んだ経験があります。市と市民の距離を縮める努力をしないとイケませんね。

さて、洲崎さんは、映画祭の実行委員長を務められました。スタッフには男性もいたと思います。女性リーダーとして心掛けていたことなどはありますか。

洲崎 私は、どんなことでもみんなで話し合うように心掛けました。男女それぞれの意見を聴き、組み合わせることで、「映画祭を成功させよう」と、全員が同じ気持ちで取り組めたと思っています。

映画祭のおかげで学生同士のつながりが深まり、そして地域とのつながりも生まれました。このつながりを財産に地域とのネットワークをつくって、活動してい

「映画祭を通じて、地域とのつながりが生まれました」



たいと思っています。

市内でイベントがあれば、参加するだけでなく、企画にも積極的に携わっていききたいですね。

市長 学生の皆さんが、イベントなどの企画に参加していただけるのは、大変心強いです。ぜひ市の活性化のために、若い感性と情熱を大いに注いでもらいたいですね。

ところで大野さんは、代表を1年で退いたとのことでしたが、次の方はすぐに見つかったのですか。
大野 「しゅっぱぽっぽ」では、参加している母親の子育てが一段落したら、得意な分野を見つけて、スタッフとして関わってもらおうようにしています。

今ではみんな自主的に、それぞれが担当を持って生き生きと動いてくださっています。そして、その中から代表となる人が自然と出てきています。

後藤 「しゅっぱぽっぽ」の流れは理想的で、うらやましく思います。女性にも「社会に出るきっかけがほしい」「活躍して認めてもらいたい」という気持ちがあります。でも、なかなかきっかけがなく、力を持て余している人がたくさんいます。家庭を持って子どもを産むことは、女性ならではの幸せの一つで

す。その上で、自分だからできること、自分らしく輝ける場所を見つけて、自分らしく輝ける場所を見つければいいと思います。もともと幸せになれるんじゃないでしょうか。

女性ならではの視点や感性を生かして

市長 皆さんのお話から、人と人とのつながりが、地域や社会で女性が活躍する原動力になっていることが伺えました。現在、国では、「すべての女性が輝く社会づくり」を標榜し、多くの女性に社会で活躍してもらおうと取り組んでいます。しかし、単に女性を労働力として捉えるという発想では、女性の力を生かすことにはならないと

思っています。一例ですが、市では女性技師が、学校のトイレの改修を行ったところ、機能面だけでなく、丸い鏡を使ったり、色使いもきれいであったりと、子ども達のみならず、保護者や先生からも喜ばれました。女性ならではの視点や感性を生かす場面はいくらでもあると思うんですね。ぜひ女性の力で、もつと住みよい地域や社会を創り出してほしいと思います。

最後に、自分らしさや特技を生かし、地域や社会で活動したいと思っている女性たちへのメッセージをいただけますか。

洲崎 何事も夢を実現するために、自分の想いを周囲に発信することが大切だと思います。想いに共感した人は必ず応援してくれます。そうした人々たちのネットワークをつくってほしいですね。

「女性の力で、もつと住みよい地域や社会を創り出してほしい」



市長 素晴らしいメッセージをありがとうございます。

狭山市は、3万人ほどの人口から出発し、現在は約15万3千人の

大野 自治会やPTA活動などへの参加も、自分の能力を発揮することの一つだと思います。それまで接点のなかった地域の人から声を掛けられるようになると、うれしく感じるものです。

家庭や地域が輝くことは全体が輝くことにつながります。多くの方が助けてくれるので心配ありません。みんなで挑戦していけたらいいですね。

後藤 女性は、男性と同じように働くのは難しいのが実態です。「女性ならではの」「女性だからこそ」といった特徴があるはずですから、女性として輝ける場を見つけていきましよう。そのためには、若いうちから自分の長所を見つけて努力をしてほしいと思います。

まずは自分のことを知り、大切に、自分を好きになる。そうすれば必ず輝くことができますから。狭山市に輝く人がもつと増えて、すてきな女性がいることをもつと発信できれば、市の活性化につながりますよね。そのことが、ほかの市から狭山市に住みたい、子育てをしたいなどのきっかけにもつながると思います。

市民が暮らしています。人もまちも高齢化する中で、今、新たな発展を目指して進んでいく時期にも来ています。そのためには、市民の皆さんが、元気に笑顔で暮らしている必要があります。そこには女性の視点が必要で、そこには女性の視点が必要だと考えています。

